

市長
コラムてっちゃんの
ひとりごと

「プライドとブランド」

このコーナーでは、小林哲也市長が日々感じている思いや出来事などを隔月連載でお伝えしています。

市長任期2期目を迎えて初めての「ひとりごと」になります。既に市報12月号で書かせていただきましたが、1期目は「新熊谷プライドの創造」をテーマに市政を担わせていただきました。私が県議会議員時代、市内の各地区にお伺いすると、よく「隣（市外）のまちはいいよね～」というお声をいただきました。しかし、市外の方々にお会いすると、逆に「熊谷はいいよね」と言ってくださいます。

これは市民の皆さんが、隣の芝生が青く見えているだけだと感じ、熊谷市の歴史や文化、自然、そして産業を身近に感じてもらい、熊谷市への誇り（プライド）を取り戻していただこうと思い、政策理念といたしました。

これまで保育料完全無償化、水遊び施設「じゃぶじゃぶ池」開設に始まり、子育て支援・保健拠点施設「くまキッズ」も完成間近です。さらに小中学校体育館の空調整備や新たな産業誘致を進めているほか、来年には市民活動の拠点となる（仮称）第2中央生涯活動センター、再来年には（仮称）道の駅「くまがや」も開業となります。また、埼玉県と共に進めている北部地域振興交流拠点への新市庁舎の建設、群馬県・栃木県との交流を促進する利根新橋の事業化なども大きく動き出しています。ほかにも埼玉県三偉人の一人である荻野吟子の顕彰事業など、「新熊谷プライドの創造」は推進真っただ中です。

これらの育ちゆくプライドを基礎として、「新熊谷ブランドの創造」を進めてまいります。



建設中の「くまキッズ」を内覧（左が市長）